

令和4年度 教育課程特例校編成の方針等について

守谷市立大野小学校

1 守谷市における特別の教育課程特例校編成の方針等について

守谷市では、守谷市保幼小中高一貫教育のスローガン「世界に輝く人づくり」を目指し、急速に進展するグローバル化に対応することができる人材を育成するため、小学校1年生～2年生において、生活科の35時間分（1年生は34時間分）を新設する。「英語活動」においては、守谷市独自に配置している外国語指導助手（ALT）との交流の機会を多く設け、体験的な活動をととして外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重することができるグローバルな視野や態度の素地を育む学習を行うことを目指し、特別な教育課程を編成する。

2 守谷市における地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

守谷市では、保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進しており、就学前の保育所等でも、英語を用いた遊びなどを積極的に取り入れており、一貫教育として就学前の学びを小学校入学後においても継続する必要性がある。昨年度行った意識調査からも、外国語に係る学習への興味・関心が高い児童の割合が高く（90.5%）、将来は国際社会で活躍することを希望する児童生徒も多い。保護者からも本市の外国語教育に係る取組に対して高い支持を得ており、今後グローバル社会に対応することができる人材を育成するためにも特別の教育課程を編成する必要がある。

3 本校における特別の教育課程の編成・実施における成果と今後の方針について

本校では、守谷市独自に配置している外国語指導助手（ALT）による「英語活動」の授業が小学校第1学年から展開されている。小学校低学年から生きた英語に触れる機会が増えることで、児童が英語でコミュニケーションを図る機会が増加したという成果が上がっており、昨年度行った意識調査からも、「英語活動」の時間が楽しいと回答している児童が90%以上もいた。外国語や異文化を理解し、自他の文化や価値を尊重しようとする素地が形成されていることが明らかとなっている。

低学年では、授業を通して簡単な英語のあいさつや、天気、季節、数字、色、虫の名前などの日常で用いることの多い英単語に慣れ親しむことができている。また、「うれしい」「悲しい」「くやしい」「驚いた」などの感情表現もジェスチャーを交えて表現できるようになった。

中学年では、リスニング力が向上し、ALTとのクイズ形式のやりとりが盛んにできるようになった。積極的に話しかける姿が多く見られる。

高学年になると、ボディランゲージを交えながら、自らが表現したい内容を英語で伝えようとする姿が見られ、外国の文化を進んで理解し、日常生活に活用していこうとする児童が育っている。

今後の方針としては、学んだ英語を用いて日常で英語力を生かす場の設定や、小中学校9年間を見通したカリキュラムを見直し小中連携等による学校間での外国語による交流活動や発表の場を設定していく。